

11 大井川西地域まちづくり構想

11-1 地域の現状

大井川西地域 位置図

■概況

本地域は、焼津市の南部に位置し、面積は約 815ha で市域の約 12%を占めています。本地域は、大井川東地域及び大井川南地域とともに、昭和 30 年に大井川町として発足し、平成 20 年に焼津市に編入され、現在に至っています。

地域内には東名高速道路や国道 150 号が通っています。東名高速道路では、平成 27 年度に大井川焼津藤枝スマート I C が設置され、今後はスマート I C を活用した地域振興が期待されています。



■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 6,879 人、世帯数は 2,267 世帯となっており、近年は人口、世帯数ともに減少傾向にあります。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満が緩やかな減少傾向に、15 歳～65 歳未満が減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が年々強まっています。平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 27.9%で、市全体に比べて、高齢化率がやや高い地域となっています。

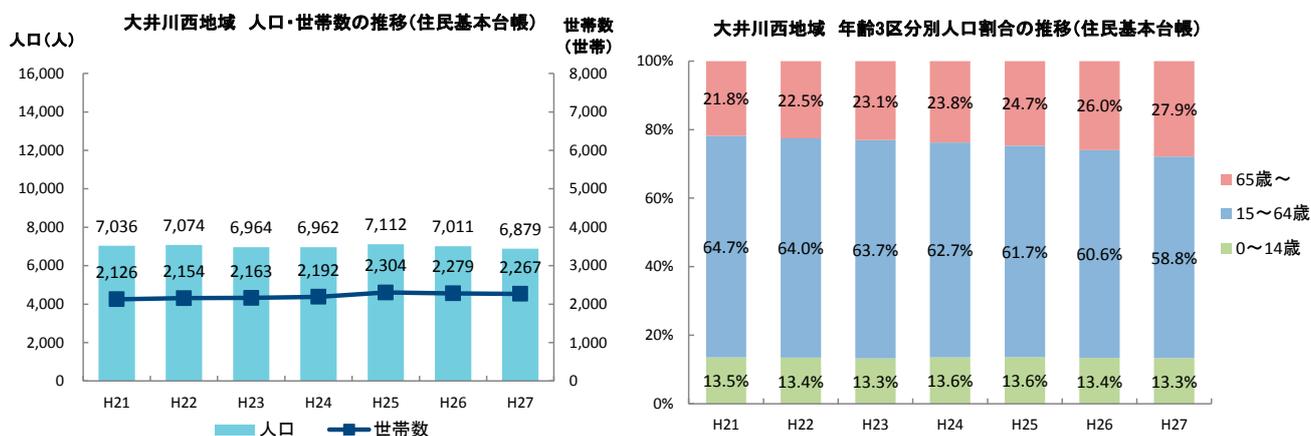


図. 大井川西地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

11-2 地域の将来像

大井川西地域の将来像

- 大井川焼津藤枝スマートＩＣを活かした、活力あふれるまち
- 人にやさしく、自然環境と共生した、誰もが住みやすいまち
- 自然災害への備えができた、安全・安心に生活できるまち

11-3 地域のまちづくりの課題

◎大井川焼津藤枝スマートＩＣを活かしたにぎわいづくりと、良好な生活環境づくり

- ・東名高速道路大井川焼津藤枝スマートＩＣが立地する優位性を活かし、既存集落地や自然環境と調和・共生した、地域の活力を高める新たなまちづくりを検討する必要があります。
- ・多くの公共施設が集積して立地し、地域住民の生活を支えている大井川生活交流拠点の現在の機能を維持するとともに、交通結節点としての機能の向上と公共交通などによる移動手段の充実を図る必要があります。
- ・既存集落地などにおいては、周辺の緑豊かな自然環境や田園風景と調和した住環境を保全・創出するとともに、地域コミュニティの維持と地域の活性化が必要です。
- ・地域の特徴であり、主要産業となっている農業を活かしたまちづくりが必要です。

◎自然や歴史・文化などの多様な地域資源の保全と活用

- ・大井川、志太田中川、泉川等においては、地域住民の憩いの場や水とのふれあいの場とするため、今後も保全を図るとともに、緑のネットワークづくりなどにより、さらに魅力を高める必要があります。
- ・まとまりのある優良農地は地域の貴重な緑の財産となっているとともに、良好な田園風景を創り出していることから、農地としての利用を継続するための取組と併せ、緑の風景を地域住民のやすらぎの場として守り、次の世代に引き継いでいくことが必要です。
- ・地域の自然や歴史・文化を守るため、地域住民が主体となった取組が必要です。

◎地域の活力向上と、地震・津波などの自然災害への備えの充実

- ・地域活動の中心地である大井川西小学校などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・災害時に、地域の避難地及び復旧・復興の拠点として機能するとともに、平時も気軽に地域住民が利用できる（仮称）大井川防災広場の整備を進める必要があります。
- ・大雨時の河川氾濫・道路冠水等を防止するため、志太田中川や泉川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。

11-4 地域のまちづくり方針

①大井川焼津藤枝スマートICを活かした、交流を創出するまちづくり

- ・東名高速道路大井川焼津藤枝スマートIC周辺においては、交通利便性を最大限に活かしつつ、自然環境や営農環境との調和・共生に留意しながら、雇用創出などの経済効果を生み、地域の活力を高める新たな土地利用について検討していきます。また、地域の特性を活かした特産品の振興を図ることで、交流人口の拡大を図り、市民、観光客がともにPRしたくなる魅力あふれるまちづくりを進めます。



大井川焼津藤枝スマートIC周辺

- ・（都）藤枝駅吉永線と国道150号が交差し、商業施設が集積した土地利用が図られている一帯や環境共生型工業地（P19参照）では、今後も周辺の住環境や自然環境との調和・共生に留意しながら、商業機能の維持と生産機能の強化を図ります。また、国道150号の沿道について、沿道サービス施設等、幹線道路の特性を活かすことのできる施設の立地を誘導します。
- ・生活交流拠点である大井川庁舎周辺においては、公共交通の結節点に位置するメリットを活かしつつ、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心・快適な生活を営むことができる環境づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。

②大井川・志太田中川・泉川など、地域の自然資源を活かした 景観まちづくり

- ・舟形屋敷や子安神社などの地域ならではの歴史文化資源を守り、活かすための地域独自の取組を推進します。
- ・志太田中川、泉川などの地域ならではの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めるとともに、大井川河川敷では、ウォーキングイベントなどの健康づくりイベントなど、市民が楽しめる参加型イベントを充実することにより、観光客も一緒になって楽しめる魅力あるまちづくりを進めます。
- ・農業生産の場でもある田園地域について、営農環境を維持しつつ、水田が広がる田園景観を保全・活用するとともに、ボランティアなどの地域住民が主体となった環境美化活動を推進します。



泉川

③大井川西小学校などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 「向こう3軒両隣」の思想に基づく防災・減災まちづくり

- ・大井川西小学校など、地域活動の中心地にある既存施設を有効活用し、子どもから高齢者まで誰もが、集い、憩うことのできる場づくりを進めるとともに、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、（仮称）大井川防災広場においては、平時は子どもから高齢者まで誰もが利用できる広場として、また災害時には避難地及び復旧・復興の拠点として機能を確保します。



大井川西小学校

- ・台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、志太田中川や泉川などでは、河川の特徴を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。また、「向こう3軒両隣」の思想に基づき、地域が地域を守る、共助ネットワークの仕組みづくりや、災害時に農業水利施設を消防用水や雑用水として利活用するための地域独自の取組を支援します。

